

ハイキング部だより

第170回記念

平成29年(2017年)12月3日(日)、4日(月)一泊二日

～ 元禄ロマン漂う赤穂、そして坂越の街並みを訪ねる

行 程:1日目(3日)

赤穂駅～花岳寺～大石神社～赤穂城跡～赤穂岬～赤穂ハイツ(泊)

2日目(4日)

赤穂ハイツ～大避神社～坂越(さこし)街並み～坂越駅(解散)

参加者 20名

12月3日から4日にかけて一泊二日で第170回ハイキングを実施しました。好天に恵まれ歩くと汗ばむぐらいでした。12月14日の義士祭が近いことと牡蠣がおいしい時期とあって人出も多いようでした。

今回は、忠臣蔵のふるさと赤穂と、牡蠣と街並みの景観で知られる坂越を歩くコースです。赤穂は古くから塩の産地として栄え今も赤穂塩の名を全国にアピールしています。

1日目は11時に播州赤穂駅をスタート、花岳寺と大石神社そして赤穂城跡と歩きました。花岳寺は赤穂藩歴代藩主の菩提寺です。大石神社は大正元年に大石内蔵助はじめ四十七士と萱野三平を祭神として創建されたもので、鳥居の前に四十七士の像が並んでいました。赤穂城跡の二の丸庭園はきれいに整備されており、本丸庭園には刃傷事件後に大石内蔵助らが大評定で集まった御殿の間取りが「何々の間」などと復元されていました。ここからは周遊バス「陣太くん」に乗り(どこまでも100円)途中で降りて海岸ペリを歩きました。風もなく海はなぎ状態で家島群島を眺めながらしばらく歩き、展望台に上がり休憩、小豆島が遠くに望めました。4時ごろ「赤穂ハイツ」に到着、風呂で汗を流して6時から9時まで食事と懇親会、一人ずつスピーチをし、カラオケで歌を歌うなど懇親を深めました。

2日目は、10時に宿をスタート、送迎バスで坂越まで送ってもらいました。まず大避神社に参拝し安全祈願をしたのち海岸を歩き、行政や商業などの事務を行う村の会所「旧坂越浦会所」に寄り丁寧な説明を聞き、「酒造資料館」を見て「坂越街並み館」に寄りました。ここでも親切な対応を受け、塩見饅頭の宣伝もしっかりとしていました。牡蠣料理の「城」というところで昼食(牡蠣の釜飯と牡蠣フライに味噌汁)をいただきました。檜谷さんが焼き牡蠣をご馳走してくれました。そのあと坂越駅まで歩き13時41分の電車に乗り帰途に着きました。なお、赤穂駅から赤穂岬展望台まで荻田さんも一緒に歩いてくれました。用事があって途中で帰られました。

第170回記念ハイキング

～ 元禄ロマン漂う赤穂、そして坂越の街並みを訪ねる

【会計報告】

収入の部

会費	10,000円×20名	200,000円
寄付(早内さんから)		5,000円
計		205,000円

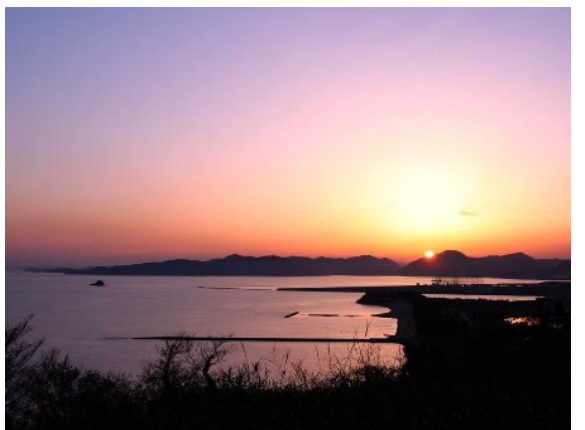
支出の部

赤穂ハイツ		181,567円
昼食代		20,000円
計		201,567円

※ 残金3,433円は部費に繰り入れします







第170ハイキングは下記の計画で実施しました

～ 元禄ロマン漂う赤穂、そして坂越の街並みを訪ねる ～

日 時:平成29年12月3日(日)、4日(月)一泊二日
12月3日(日)11時「JR播州赤穂駅」集合
(1日目の弁当は持参してください)

行 程:1日目(3日)
赤穂駅～大石神社～赤穂城跡～赤穂岬～赤穂ハイツ(泊)

2日目(4日)
赤穂ハイツ～坂越(さこし)街並み～坂越駅(解散)

宿 泊:赤穂ハイツ 赤穂市尾崎向山2470-64(TEL 0791-48-8935)

費 用:10,000円(宿泊費、拝観料)費用は12月3日徴収します
(交通費は各自負担)

元禄15年12月14日、赤穂浪士四十七士が吉良邸に討ち入りしてから315年、今回は、その元禄ロマンただよう赤穂市を訪ねます。忠臣蔵のふるさととして、また浅野家時代に確立した“塩の国”として全国に知られている赤穂。赤穂城跡、大石神社や義士の旧邸宅跡を歩いてまわり、元禄時代にタイムスリップします。

2日目は、中世以降に廻船業として栄えた奥深い入江を持つ天然の港坂越湾、そして当時の面影が偲ばれ風情ある街並みが残っている港町坂越を訪れます。都市景観大賞(100選)にも選ばれた伝統的建造物群による古い街並みです。また、赤穂の豊かな海が育てた坂越の牡蠣は、身が大きくプリッとふっくらしており絶品と評判です。

